知ってる？ 中央区探訪

記念館に新島襄とのゆかりを訪ねて

中央区の魅力的なスポットをテーマにあわせて訪ねる「中央区探訪」。今回は、ドラマ「八重の桜」の主人公で明治を生きた「ハンサムウーマン」新島八重の夫、新島襄とのゆかりを訪ねて、中央区の記念館をたどります。

熊本洋学校教師 L・L・ジェーンズ

砂取校区

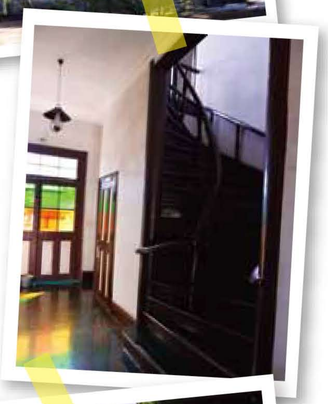
まず、訪れたのは、水前寺成趣園近くにある熊本洋学校教師ジェーンズ邸。熊本市最古の西洋建築であることでも知られる、熊本洋学校教師ジェーンズの住居だった建物だ。白い壁にエメラルドグリーンの柱が印象的な建物は、秋の青空に映えていた。

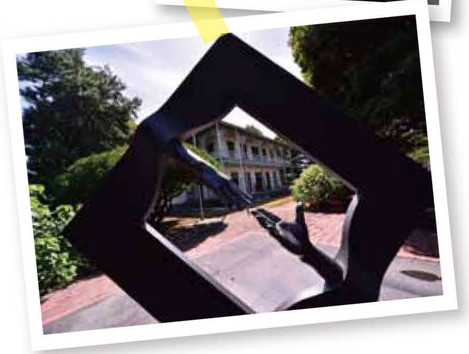
熊本洋学校は熊本の近代化に寄与する人材育成のために設立された。日本初の男女共学も行われたというから驚きだ。建物に入ると、館長の堀川重昭さんが、軽快な口調で、ジェーンズ邸について解説してくれた。堀川さんの話によると、熊本洋学校の授業は全て英語で行っていたという。学問への強い意思が求められ徹底した自学自習の教育が行われた。50～70名の入学者のうち卒業者は10名程度だったらしい。

残念ながら、熊本洋学校は5年で廃校となり、そのときジェーンズが生徒を託したのが、新島襄の設立した同志社英学校だった。そこで学校のリーダー格として、卓越した力を発揮した彼らは、熊本バンドと呼ばれ、その後の同志社大学の基礎を作るメンバーとなっていった。

ジェーンズ邸内には、英語で綴られた数学のノートなどが展示されているが、中でも印象に残ったのは、建てられた当時のまま残るガラス戸。生徒たちから「ビードロの障子」、「中が透けて見える障子」と呼ばれていたガラス戸からは、わずかに風景が歪んで見える。また、ブドウの彫り込まれた柱や菱型の意匠のテラスなど、細工の細かさにも驚かされた。

建物2階には、日本赤十字社関係の資料が展示されている。明治10年の西南戦争の時、赤十字の前身である博愛社の設立許可をこの二階で受けたため、日本赤十字社発祥の地にもなっているのだ。建物の前庭に、創立100周年に作られたモニュメントも置かれている。





新島襄と心通わせた徳富蘇峰

大江校区

ジェーンズが同志社英学校に託した生徒の一人に、徳富蘇峰がいた。蘇峰は、明治から昭和の近代日本社会に大きな影響を与えたジャーナリストだ。熊本市の名誉市民でもあり、平成25年で生誕150年を迎える。

蘇峰は、新島襄と出会った瞬間「天が先生を与えてくれた」と感じたそうで、その交流は恩師と生徒を超えたものだったと、徳富記念館の藤川博昭館長が教えてくれた。蘇峰の自由民権運動への強い思いは、新島襄から学んだものだったのではないか、とも感じさせる。新島襄は、死の間際に蘇峰を呼び、遺書を筆記させており、その信頼の深さが伺える。蘇峰も、その信頼に応え、新島襄の死後、ずっと八重を支援し続けたらしい。

徳富記念園には、蘇峰が幼少期を過ごした住居がそのまま残されている。その一部で大江義塾が開校された。弟で小説家の蘆花の作品には、この家で体験したことも記述されているらしく、小説の舞台となった場所には、そのエピソードも記されていた。

新島襄と蘇峰の関係の深さを示すのが、園内にあるカタルパの木。この木は蘇峰19歳の大江義塾開校の後、新島襄が贈ったものだ。新島襄は、日頃から「10年後を考えるなら木を植えよ」と言っていたそうで、その思いを込めて種が送られてきたらしい。

現在もカタルパは5月に大きな花を咲かせている。実は、現在のカタルパは二代目だそうだ。初代の、蘇峰が植えたものは、台風で倒れてしまったらしい。倒れたカタルパは、大きなテーブルに姿を変えていた。8月にできたばかりというテーブルは旧邸内の座敷に、どっしりと鎮座していた。

ふと時計を見ると、藤川館長の、蘇峰の生涯を語る話を聞いて、思わぬ長時間を過ごしたことに気づいた。

近代日本が大きな変化を迎えていた時代、熊本と熊本から巣立った人材が、その中で大きな役割を果たしていたことを、今回の記念館を訪ねて実感することができた。

1 熊本洋学校教師ジェーンズ邸
住所：熊本市中央区水前寺公園22-16
電話：096-382-6076

2 徳富記念園
住所：熊本市中央区大江４丁目10-33
電話：096-362-0919
開館時間：9:30～16:30
休館日：月曜（祝・祭日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：高校生以上200円 小・中学生100円

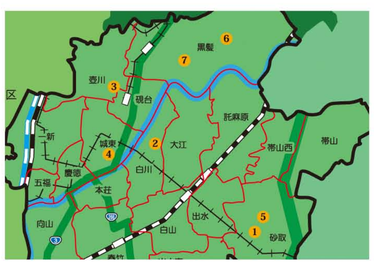
中央区のその他の記念館

3 夏目漱石内坪井旧居
夏目漱石の熊本で五番目の家。
漱石直筆の原稿などを展示。
住所：熊本市中央区内坪井町4-22
電話：325-9127

4 小泉八雲熊本旧居
小泉八雲が最初の１年を過ごした家。
八雲が毎朝礼拝したといわれる神棚などがある。
住所：熊本市中央区安政町2-6
電話：354-7842

5 後藤是山記念館
歌人・俳人・郷土史家として知られる記者、是山の作品、交流のあった蘇峰等の作品を展示。
住所：熊本市中央区水前寺2丁目6-10
電話：382-4061

6 リデル、ライト両女史記念館
ハンセン病患者救済のために尽力したリデル、ライトの資料やハンセン病に関する資料を展示。
住所：熊本市中央区黒髪５丁目23-1
電話：345-6986

上記の記念館はすべて
開館時間：9:30～16:30
休館日：月曜（祝・祭日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
入館料：高校生以上200円 小・中学生100円
リデル、ライト両女史記念館のみ無料

7 五高記念館
熊本大学内に残る旧制第五高等学校の赤煉瓦の建物。五高生の生活を彷彿とさせる写真が残る。
住所：熊本市中央区黒髪2丁目40-1
電話：342-2050
開館時間：10:00～16:00
休館日：火曜（詳細はホームページ等を確認）
入館料：無料